



連載コラム 院長室だより 病院長 篠崎英夫

この広報誌「安曇野日和」が創刊されたのは、一昨年の7月でしたので、今号で丁度2年経ちました。それまでの院内誌「さくらだより」を対外誌に改め、名称は職員から公募して決めました。創刊号から続く「院長室だより」は誰向けに？と考えましたが、まずは、職員向け徐々に拡大し、近隣施設、近隣住民向けにと考えました。もっとも、インターネットの病院ホームページからアクセスできるので、一般国民向け、世界中からアクセスできるので世界の人々向けと言えないことはありませんが…。

前回の「院長室だより」で触れましたが、当院は日本医療機能評価機構の審査に見事に合格、県内単科精神科病院としては唯一の認定病院となりました。審査結果報告書によると、評価小項目301の内、b評価は極一部で殆どがa評価でした。勿論c評価はありません。学業成績表に例えると、オールAに近いといえます。

病院創立10周年記念事業として、職員一丸となって取り組んだ成果だと思います。休日を返上して頑張る職員の姿を見て、創立125年余の歴史と伝統を誇る城西医療財団職員としてのプライドと、組織に対するロイヤリティーを感じました。

日本医療機能評価機構から認定されたことは、次の認定に向けてのスタートでもあります。病院の理念・方針・計画を着実に実行していかなばなりません。明日から、病院職員・財団職員の「絆」をより強固にして、さらに頑張りましょう。本当に、有難うございました。

表紙写真

写真タイトル：「蕎麦畑の花」 撮影者：樋口 孝（広報委員長）

撮影者のコメント： 通勤途中、満開の蕎麦畑があり写しました。

精神科病棟だより

2-2病棟紹介

介護主任 中畑 久美子

2-2病棟は、3病棟ある精神科療養病棟（150床）の内、唯一の閉鎖病棟（50床）です。現在、50名の患者さまが入院されており、平均年齢は66歳、男女比率は男性4：女性6と女性の方が少し多めです。療養病棟のため、ほとんどの患者さまが慢性期で、比較的精神症状は安定していますが、日内変動の大きな方や、数ヶ月周期で変動のある方など様々な病状の患者さまが入院されています。

患者さまの中には、自分の気持ちや不調を表わせなかったり、逆にとても深刻な言葉や行動で訴える時があります。すぐにでも気持ちを楽にしてあげられたらと思うのですが、見守っているのが現状です。それでも時には笑顔が見られホッと癒されます。

休みが数日続いた後には、「はーるか見なんだけど、どうしたずらかと思って。まー、会えて良かったわやー」と声をかけてくださる患者さまや、脚立に上って作業などをしてしていると、そっと押えて、「大変だね、落ちなんでねー。」と、声をかけてくださる患者さまもいます。このような優しい思いやりの気持ちに接する（触れる）と、とても嬉しく、とても励みになります。

私からも、患者さまにほっとできる言葉をたくさんかけてあげられたらと思います。日々、穏やかに過ごされている患者さまでも、心の中には悩みがあること、また入院していること自体が、どうすることもできない苦痛であることを理解した上で、すべての患者さまに温かく、混乱のない安心できる生活を送っていただけるよう、より一層努力していきたいと思います。



2-2病棟は閉鎖病棟で、患者さまが自由に屋外へ出ることができないため、少しでも季節感のある生活を送っていただければという願いから、日々のお散歩と病棟内のレクリエーションを工夫しています。病棟レクリエーションは、病院行事のない月に開催し、毎月楽しんで頂けるよう計画しています。

今年度に入り、4月にお花見、5月は端午の節句を行いました。6月は病院全体行事の夏祭りを、7月にはすいか割りを予定しています。

病棟スタッフは、この4月に18歳の介護員の新人を迎え、グーンと平均年齢は下がりました。素直さと真面目に取り組む姿勢を見守りつつ、一緒に成長できればと感じています。スタッフ同士が協力し合い、働きやすい環境作りを心掛けていきます。



写真の説明

（左上）端午の節句のレクでは、くまモンの当てゲームが行われました。

（右）ミサトピア小倉病院の駐車場には、たくさんの桜の木が植えられています。桜の季節には、毎日のように、お散歩に出かけお花見を楽しんでいます。

（左下）6月に開催された、夏祭りで発表する「炭坑節」の練習を、病棟のホールで行っています。

介護療養病棟だより

臨床心理士の役割

臨床心理士 中山 聖悟

臨床心理士は心理検査を行ったり、カウンセリングを行ったりして、その人がより自分らしく適応的に生活するのを支援するところの専門家です。こころと簡単に言いましたが、こころとは一体何でしょうか。「好き・嫌い」といった感情や「今日の晩御飯は何にしよう」といった思考をイメージする方が多いと思いますが、それだけがこころではありません。物を見たり、記憶したり、思い出したり、その触れるために物と体の位置関係を把握したり、実際に体を動かしたり、話したり、聞いたり。こういった基礎的な行動もすべてこころの動きであり、それを支えているのが脳の動きです。

当院の臨床心理士はこの脳の機能（高次脳機能）がどの程度適切に働いているのかを評価することが仕事です。今では誰でも知っているCTやMRIといった脳画像ですが、「どの部分がどう変化していて、どうダメージを受けているのか？」という情報は得られますが、「実際にどの程度機能しているのか？」は脳画像ではわかりません。その部分を評価するのが神経心理学的検査であり、臨床心理士の役割なのです。

そもそも認知症とは、認知症という病気があるのではなく、脳にダメージを与える病気によって脳の機能が低下し、脳機能低下によって起こるさまざまな症状により、生活が困難になった状態の事をさします。だから低下している能力・保たれている能力を正しく評価し、低下している能力が引き起こす症状を見つけ出し、一方で保たれている能力からまだできることを見つけ出し、如何にその人らしい生活が送れるように支援するかが大切になります。

このように臨床心理士は、実際に患者様のケアに携わることは少ない裏方ですが、医師を中心とした直接支援する方に適切に情報提供を行うことにより、患者様がよりその人らしく生活できる援助を行っております。

病棟行事 芽吹きのか 開催

5月29日（水）病棟のホールにて、芽吹きのかの皆さんによる篠笛と太鼓のコンサートが開かれました。

演奏には岸川先生も参加され、祭りばやし、荒城の月、五木の子守唄、島原の子守唄、おぼろ月夜、こいのぼり、背くらべ、ふるさと、アンコールに木曾節と、患者さまに馴染みのある曲を演奏していただき、演奏に合わせて歌を歌いました。

日頃、レクリエーションなどに関心を示さない患者さまも、演奏が始まると、そちらに顔を向け、手拍子をしたり、口ずさんだりと、演奏に集中されていました。生演奏の迫力に、皆さん感動され、感極まり涙する患者さまもいました。

30分程の演奏でしたが、「また来てくださいね」「すごかったね」「ありがとうございました」と、楽しまれた様子でした。

歌が好き、カラオケが好きという患者さまは多いですが、篠笛と太鼓の生演奏は、いつもと違う雰囲気、患者さまに感動をくれました。

芽吹きのかの皆さん、ありがとうございました。



病院機能評価を受審しました

平成24年4月、ミサトピア小倉病院開設10周年の記念事業の一環として、日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審することが決まりました。各委員会を再編成し、業務についての規程・基準・手順を見直し、書面調査の自己評価調査票の確認を行い、職員一丸となって認定合格を目指すことになりました。

病院機能評価は、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動（機能）が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みです。評価調査者（サーベイヤー）が中立・公平な立場にたって、所定の評価項目に沿って病院の活動状況を評価します。評価の結果明らかになった課題に対し、病院が改善に取り組むことで、医療の質向上が図られます。（日本医療機能評価機構ホームページより）

平成24年10月のプレ受審では、審査を受けるといよりは、当院の問題点を確認するというところに重点を置き、本審査へ向けて問題点の改善を試みました。

受審に際して、ただ認定合格を目指すのではなく、医療の質の向上を図ることを目的とし、患者さま本意の精神科医療とは何なのか？を問い続けることで、更なる病院機能の向上させることに努力しました。

本審査は、平成25年1月9日～11日の3日間、4名のサーベイヤーが来院され行われました。

初日は主に書類審査で終わり、翌日は午前中に合同面接のあと、診療・看護・事務管理の領域別面接が行われ、午後は、各部署への訪問によるケアプロセスの評価が行われました。そして、最終日は、全体で領域別の合同面接が行われ、無事に本審査は終了しました。

そして、待つこと3ヶ月。指摘事項を受けることもなく、平成25年4月5日付けで、合格の「認定証」をいただくことができました。

認定期間は5年間です。今後も、この認定に甘んじることなく、病院機能の更なる向上と、次回受審に向けて努力していかなければならないと考えています。



病院の理念

慢性期の患者さま一人一人の病状・置かれている状況を個別的に考え人格を尊重し、全職員が職種を超えてチームを組んで一体的に治療目標が達成できるように最良のサービスを提供する。

病院の基本方針

1. 地域への貢献
2. 医療安全・サービスの質の向上
3. 職場の環境づくり
4. 地域連携
5. 経営の健全化

患者さまの権利

患者さまは、人間として尊重され差別されることなく、公平で良質な医療を受ける権利があります。そのため私達は治療を始める際には、診療についての情報をご本人に説明しご理解いただいた上で患者さまのプライバシーを守り、意思を尊重し継続性のある医療を提供します。

〒399-8103
長野県安曇野市三郷小倉6086-2
TEL 0263-76-5500(代) FAX 0263-76-5501

社会医療法人 城西医療財団
ミサトピア小倉病院

精神科療養病棟150床・老人性認知症疾患療養病棟50床

編集後記

創刊号から2年が経過し、時の流れの早さを感じつつも、8号を発行することができました。毎回、無事に発行できるのは、編集に苦労している委員の努力に他ならないと思います。

新緑が眩しい季節になり、各部署に新入職員が入職し、3ヶ月が経過しました。かなり慣れてきた頃だと思います。これから、ベテランと呼ばれる職員に、是非なって欲しいと願うばかりです。

広報委員長 樋口 孝